日本の絶滅危惧植物ラリー　屋外

絶滅危惧植物は６つのランクに分けられ、アルファベット2文字で表されます。
地図にある絶滅危惧植物を見つけ、ランクを[　　]に記入しよう。

記入例

1. コシガヤホシクサ [EW]：野生から絶滅した貴重な水草。当園で野生復帰のプロジェクトを進めている。花期8-9月。ﾎｼｸｻ科

2. オゼコウホネ [　　]：池や沼に生える。ネムロコウホネの変種で柱頭盤が紅色。植生の遷移により減少。花期5-9月。ｽｲﾚﾝ科

3. リュウキュウアセビ [　　]：沖縄島にのみ分布する日本の固有種。アセビより花が大きく見ごたえがある。花期3-4月。ﾂﾂｼﾞ 科

4. タイワンツクバネウツギ [　　]：風当たりの強い岩場に生育する。日本では奄美大島・沖縄島・石垣島だけに分布する。花期8-10月。ｽｲｶｽﾞﾗ科

5. クワイバカンアオイ [　　]：屋久島の固有種。葉の形がクワイに似ることが和名の由来だが、実際には変異が大きくクワイに似ているとは限らない。花期11-2月。ｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ科

6. タイワンホトトギス [　　]：水の滴る滝のそばなどに生育する。国内ではもとから個体数が少ない。花期10-12月。ﾕﾘ科

7. シビイタチシダ [　　]：絶滅と判定されたが当園と鹿児島県の個人宅に栽培株が生存していたことが判明した。ｵｼﾀﾞ 科

8. アサザ [　　]：池や沼に生える。花は一日でしぼむ。池沼の開発や水質汚濁などが減少の要因。花期5-8月。ﾐﾂｶﾞｼﾜ科

9. サンショウバラ [　　]：神奈川、山梨、静岡に分布。山地に生育する落葉小高木。葉や枝の刺がサンショウに似る。5月上旬、ピンクの花を咲かせる。ﾊﾞﾗ科

10. ヒトツバタゴ [　　]：長野、岐阜、愛知、長崎に分布。丘陵の湿った所に生える落葉高木。5月初旬、白い繊細な花を咲かせる。ﾓｸｾｲ科

11. クマガイソウ [　　]：4月末～5月初旬、袋状の花を咲かせる。園芸目的の採集、森林伐採などが減少の要因。ﾗﾝ科

12. ハナノキ [　　]：長野、岐阜、愛知に分布。山間の湿地に散生する落葉高木。花は展葉前に咲き、真紅色で遠景が素晴らしい。ﾑｸﾛｼﾞ(旧ｶｴﾃﾞ)科

13. アマギツツジ [　　]：伊豆半島天城山などに分布。山地の林内や林縁で見られる落葉低木。開花は6月で、ツツジの中では遅咲き。ﾂﾂｼﾞ 科

14. ヤツガタケトウヒ [　　]：長野県八ヶ岳周辺に分布。山地の谷沿いに生育する常緑針葉樹。高さ20-30m。ﾏﾂ科

15. オキナグサ [　　]：名は、種子をつけた姿がおじいさんの白髪頭のように見えることから。園芸採取などにより数を減らしている。花期3-4月。ｷﾝﾎﾟｳｹﾞ 科

16. 私が見つけた絶滅危惧植物：地図にない絶滅危惧植物の名前とランクを書こう！
[　　][　　]

危険度高 ↑ 危険度低

環境省レッドリストランク

EX	Extinct	絶滅
	日本ではすでに絶滅したと考えられる種	
EW	Extinct in the Wild	野生絶滅
	栽培下でのみ存続している種	
CR	Critically Endangered	絶滅危惧 IA類
	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種	
EN	Endangered	絶滅危惧 IB類
	近い将来における絶滅の危険性が高い種	
VU	Vulnerable	絶滅危惧 II類
	絶滅の危険が増大している種	
NT	Near Threatened	準絶滅危惧
	生育条件により絶滅危惧に移行するおそれのある種	

絶滅危惧植物シンボルマーク

日本の植物の１/４が絶滅危惧植物であることと、これ以上絶滅危惧植物が増えないようにとの願いがこめられています。

絶滅危惧植物区

◔Ｈ4絶滅危惧植物区は2008年10月、生命を支える多様性区のひとつとしてオープンしました。さまざまな絶滅危惧植物の系統維持を兼ねた植栽展示にとりくんでいます。

◔植物園のバックヤードにはまだまだたくさんの絶滅危惧植物が栽培維持されています。その様子をご覧頂けるように、バックヤードの絶滅危惧植物温室を公開しています。

日本の絶滅危惧植物ラリー 温室

1～8の絶滅危惧植物のランクを[　　]に記入しよう

1. コウシュンカズラ [　　]：マレーシア、オーストラリア、太平洋の熱帯に分布。黄色い花を咲かせるつる植物で熱帯では庭木とされる。ｷﾝﾄﾗﾉｵ科

2. ムニンセンニンソウ [　　]：小笠原固有種。日当たりのよい山地に自生する常緑のつる植物。花は白く十字形。自生地が局限されており、個体数が1000未満と推測されている。ｷﾝﾎﾟｳｹﾞ科

3. ツルラン [　　]：東南アジアを中心に分布する。エビネの仲間で、花は夏に咲き、ツルに似ている。園芸用の採集などにより減少している。ﾗﾝ科

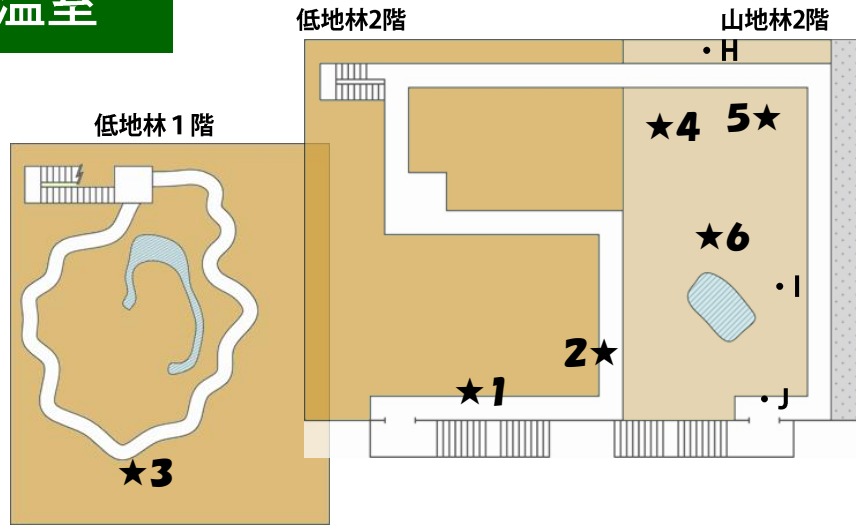
4. クスノハカエデ [　　]：鹿児島、沖縄に分布。亜熱帯や暖帯の山地林内に生える常緑高木。名は葉がクスノキに似ることから。土地造成、道路工事、森林伐採が減少の主要因。ﾑｸﾛｼﾞ(旧ｶｴﾃﾞ)科

5. アマミヒイラギモチ [　　]：奄美の固有種。葉は楕円形で小ぶり。暖地の山地に生育する常緑低木。園芸用の採集のため激減している。ﾓﾁﾉｷ科

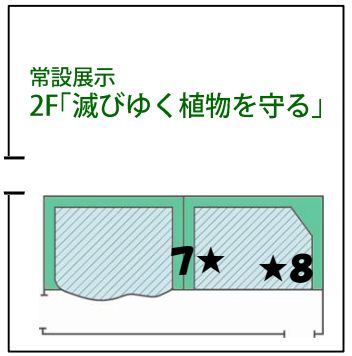
6. コウトウシュウカイドウ [　　]：沖縄に分布するベゴニアの仲間。葉は腎形で左右非対称。園芸用の採集などにより減少傾向にある。ｼｭｳｶｲﾄﾞｳ科

7. ミミモチシダ [　　]：沖縄に分布。日当たりの比較的良いマングローブに生育する常緑性シダ。葉柄は大きいものでは1mに達する。ｲﾉﾓﾄｿｳ科

8. ヒルギモドキ [　　]：沖縄に分布。マングローブに生える常緑の小高木で高さ10mに達する。果実は海水に浮いて運ばれる。ｼｸｼｼ科



B 熱帯雨林温室



C 水生植物温室

植物を守る世界規模での取り組み

絶滅の恐れのある生物は世界中に数多く存在し、世界各国が協力して守っていく必要があります。

CITES(ワシントン条約）による規制

絶滅の恐れのある野生動植物種の国際取引に関する条約。指定種は国際取引が厳重に規制される。

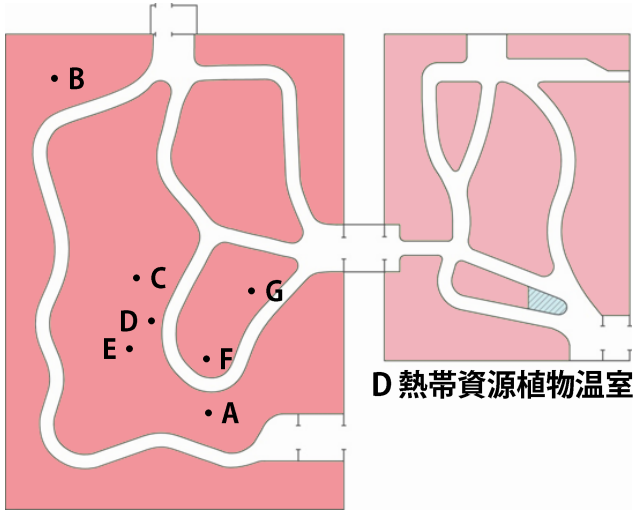
おもなCITES指定種

- **A サボテン科全種**
- **B ソテツ科全種**
- **C アロエ属全種**
- **D トウダイグサ属の多肉性の種**
- **E ウェルウィッチア**
- **F ウンカリナ・グランディディエリ**
- **G ディディエレア科全種**
- **H ラン科全種**
- **I ヘゴ属全種**
- **J ウツボカズラ属全種**

など、約29,000種の植物が指定されている

IUCNレッドリスト

レッドリストは、野生生物の現状を知ることや、保護の優先順を決めるのに役立つ。
IUCN(国際自然保護連合)により、世界規模でのレッドリスト(絶滅の恐れのある動植物)がまとめられつつある。
2014年の時点で、植物30万種あまりのうち約2万種が調べられ、1万種あまりが絶滅危惧種として指定されている。



A サバンナ温室

D 熱帯資源植物温室

琉球列島、小笠原の絶滅危惧植物

多目的温室

環境省レッドデータランク

危険度高 ← 絶滅危惧IA類(CR)　絶滅危惧IB類(EN)　絶滅危惧Ⅱ類(VU)　準絶滅危惧(NT) → 危険度低